



千年支える釘を打つ ～古代道具復元・白鷹幸伯 (しらたかゆきのり)さん～

放送日:1996年3月20日 放送時間:29分

対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 道徳 総合

この番組の良さ

● 古代道具復元に挑む

白鷹幸伯さん(1935~2017)は、和釘など日本の伝統的な大工道具を専門に手がけた鍛冶師です。宮大工の西岡常一氏との出会いがきっかけで、薬師寺西塔再建の際の和釘作りを引き受けました。鉄鋼メーカーの協力を得て、純度の高い古代の鉄を再現し、ふいごを駆使して手作業で7000本の釘を作り上げました。

● 自分は仕事とどう関わるか

白鷹さんは、「千年耐える物を作る」を信条に、仕事に取り組みます。手作業で7000本もの釘を打ち出す、気の遠くなるような作業の中で、なぜ白鷹さんがこの仕事に取り組むのか、どのような気持ちで仕事に取り組んでいるのかが伝わってきます。白鷹さんの仕事への関わり方を通して、自分と仕事との向き合い方や生き方について考えることができます。



番組活用のポイント

● 「すごい」で終わらせず、深く考える展開を!

この番組を生かし切るには、白鷹さんの努力や生き方を番組で視聴した後、もう一段深い問いについて、一人一人が考える場を設定することが重要です。例えば、「どうして白鷹さんは、あんなに懸命に仕事に打ち込むのか」「人生をかけて仕事に取り組むことをどう思うか」など、自分自身のキャリアや生き方について考える場面を設定することが大切です。

このような問いを一人一人が考え、グループや全体で共有することで、仕事についての多様な考え方に気付いたり、自分の考えを見つめ直したりすることができます。番組視聴後、自分自身の考えを深める問いを教師が投げかけることで、子供たちが「自分ごと」として考えることができ、「主体的・対話的で深い学び」へとつなげていくことができます。

● 生き方は、自分で決められる

人の生き方はさまざまです。そこに正解はありませんが、後から振り返った時に悔いのない生き方をするためには、仕事にどのように自分が関わっていくのかが、極めて重要なことです。

そのような仕事について深く考えるきっかけとして、本番組だけでなく、後のコラム(P.58)で紹介している4つの番組を活用すると効果的です。

これらの番組を通じて、理想を実現するために仕事に打ち込む生き方について考えたり、理不尽な仕事への対処方法や高校生が挑戦した商品開発について知ったりすることで、さらに勤労観を醸成することができます。ぜひ、児童生徒の実態に合わせて活用してください。



執筆者
西条市教育委員会
指導担当専門員 **山内雅博**

仕事にどのように向き合っていくか

【授業時間 45分】 部分視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事」についてのいろいろなイメージを聞き、人によって捉え方が違うことを確認する。 ・白鷹さんの釘の映像を提示し、感想を聞く。この釘は、千年支える釘と言われ、大変な手間をかけて手作りされていることを伝える。そして、この釘を約7000本手作りしたのが、白鷹幸伯さんだということを伝える。 ・「このような大変な仕事に取り組んでいるのはなぜか」を予想し、意見交換する。 ・白鷹さんが、千年支える釘づくりに取り組んでいるドキュメンタリー番組があることを伝える。 ・児童生徒の求めに応じて、番組を紹介し、部分視聴する。 ・番組視聴では、白鷹さんが釘づくりに取り組んでいる理由を考え、メモしながら視聴するように伝える。 ・白鷹さんのように、仕事に取り組むことをどう思うか問い、グループで話し合う場を設定する。 ・「仕事」とは何か、もう一度問い、自分の考えを書く時間を設定する。 ・時間があれば意見交流し、「仕事」についての見方や考え方を広げる。 <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白鷹さんの仕事への取り組み方や生き方から、仕事への見方や考え方を広げるとともに、自分は仕事にどう向き合っていくかを考えることができたか。